



# 問題提起と一つのアプローチ

日本化学会 学術情報部 林 和弘

2004年10月19日(火)

緊急シンポジウム  
「どうする日本の学術誌！」



# 国産欧文ジャーナルの必要性

1. その国で行われる研究の発表の場  
わが国の研究状況・水準を世界にしめす舞台
2. 国の知的財産を確保する場  
国が生み出した1次情報を国が保持することの大切さ 国益保護
3. 世界における日本の文化, 地位そのもの  
アーカイブは国の文化財
4. 日本の学問の自己評価能力を育成する場

2004.2.27 日本学術会議特別シンポジウム(村橋 俊一)より  
緊急シンポジウム  
「どうする日本の学術誌！」



# 日本の学術誌の問題

## A 学会(出版)の問題

手弁当サロンの限界 若い研究者が投稿してくれる日はいつ？

## B 研究者の問題

誰が何のために発行しているのか

## C 図書館の問題

図書館職員が「Librarian」としてジャーナルを選定できる日が来るのか

## D 行政, 社会の仕組みの問題

Excuseとしての引き合いになりやすい

マネジメント能力(運用の現実)

コスト意識

統計解析力

ビジョン(を作成するサポート)

緊急シンポジウム  
「どうする日本の学術誌！」



# 電子ジャーナルの誕生・その利点

## 世界の流れ

- 1995年頃(web公開) 1998年頃(web投稿査読)  
2001年頃 (相互リンク)

## 利点

- どこでも論文が読める
- 冊子体より早く論文が読める
- 検索ができる
- 引用文献のリンク
- 動画・音声など電子付録の挿入

早く知りたい

調べたい

関連情報に素早く到達したい

E-Bookははやらないのに、  
E-Journalは何故はやるか？

冊子では不可能

電子化のデメリットを超える

緊急シンポジウム  
「どうする日本の学術誌！」



# Chemistry Letters



投稿から掲載まで30日を切る国際的な速報誌  
1972年創刊 3000部(海外800部弱)

1998年まで 原稿の切り貼り組版による速報性の追及  
1998年-2001年 電子化を検討開始と自サーバーによる公開

- 2002年 J-STAGEによる全文公開の開始  
2003年 Advance View(印刷前web公開)の開始  
電子投稿の開始 DOI、web公開日の記述  
図つき目次無料カラー化  
コンテンツアラート(目次email配信)  
2004年 本格的な電子査読開始

速報性を高める

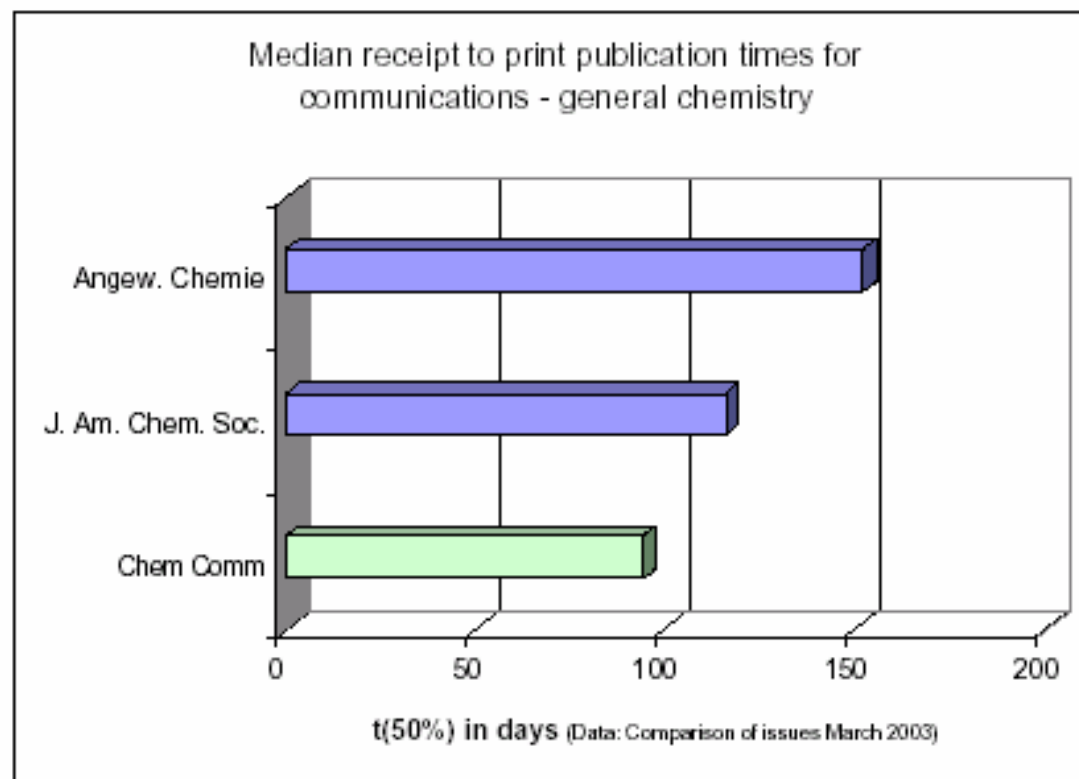
緊急シンポジウム  
「どうする日本の学術誌！」



# 一般化学雑誌の速報誌との比較

RSC Journals

Fast publishing – for the latest science



t(5

([http://www.rsc.org/pdf/journals/times\\_publication.pdf](http://www.rsc.org/pdf/journals/times_publication.pdf))

緊急シンポジウム  
「どうする日本の学術誌！」



# 2004年では？ Web掲載までの期間は？

## Publication time

	ChemLett	ChemComm	Angewandte	JACS
Impact Factor	1.579	4.031	8.427	6.516
no of articles	178	340	381	268
publication time/web	83	80.5	108	154.4
(with page number?)	yes	no	no	no
publication time/print	108	119.2	134.1	162.3

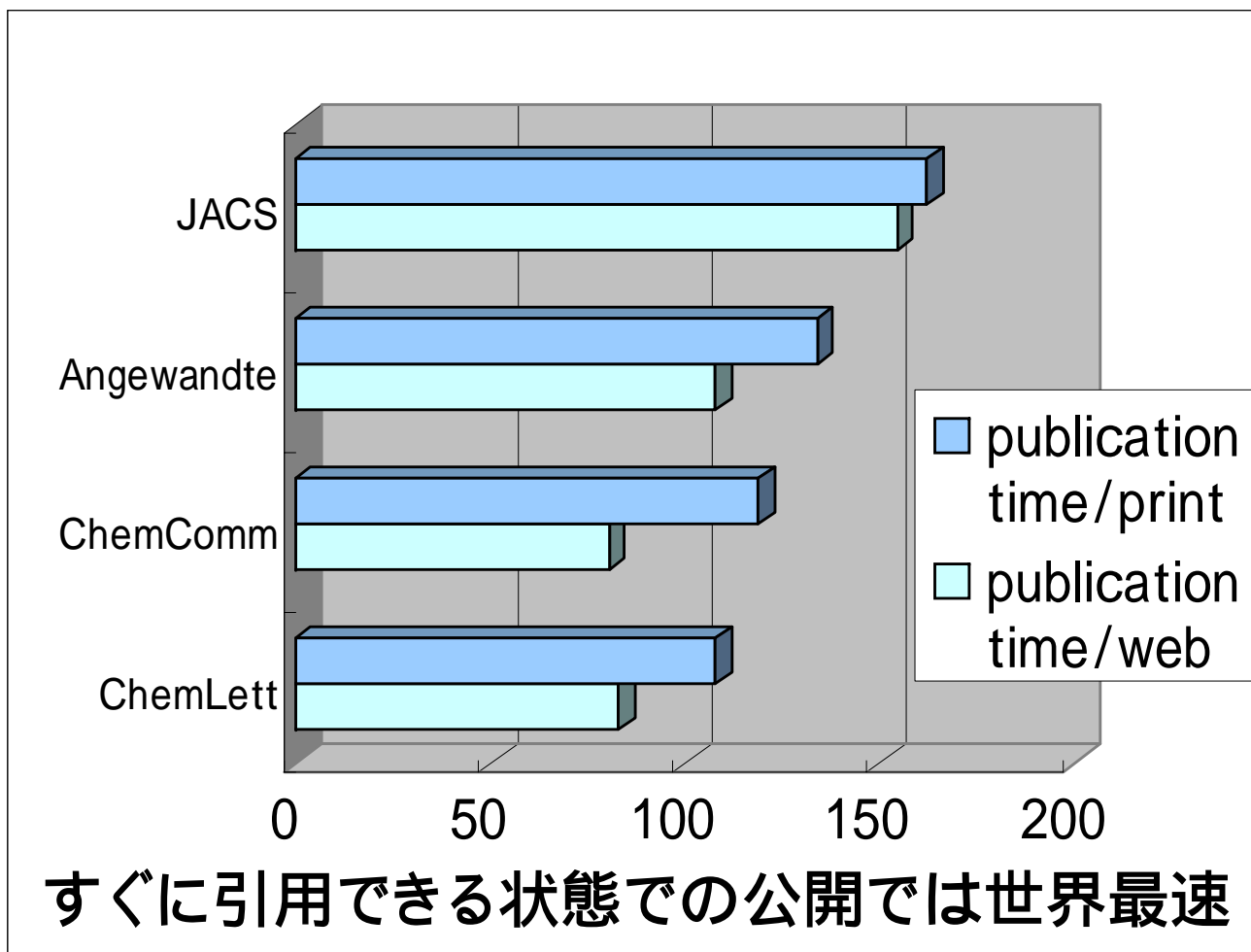
average in days (Data: Comparison of issues January-March 2004)

## 印刷前web公開，電子投稿開始の影響

緊急シンポジウム  
「どうする日本の学術誌！」



# 一般化学雑誌の速報誌との比較2



average in days (Data: Comparison of issues January-March 2004)

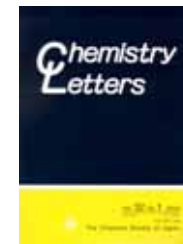
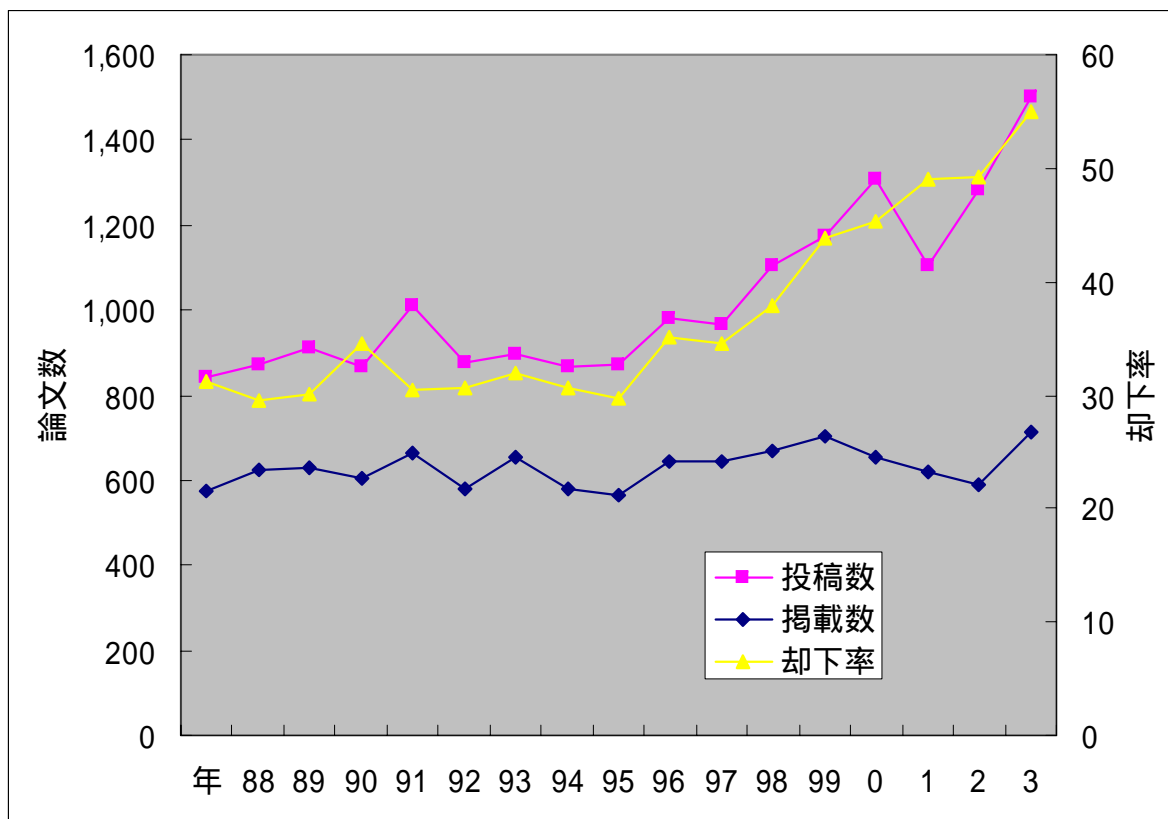
電子査読開始後は？ 2004.10月号のデータ

緊急シンポジウム  
「どうする日本の学術誌！」





# 投稿・掲載件数，却下率の推移



(2004年は1-6月のデータを元にした見込み)

2004年1-10月：海外投稿率は51%に  
却下率も上がり，質の良い論文に絞り込む

緊急シンポジウム  
「どうする日本の学術誌！」



# 雑誌出版の収支構造

- 収入

購読費 81% (図書(海外59%, 国内14%), 個人21%, 法人6%)

投稿料(別刷り代) 8%

補助金 10% (アーカイブ)

広告収入その他 あって無いようなもの

- 支出

基礎データ(版下と電子ジャーナルデータ)作成費 19%

冊子印刷送達経費 15%

別刷り印刷送達経費 2%

電子ジャーナル公開経費 0% (J-STAGE利用)

編集経費(委員会経費) 9% (ボランティア的)

事務経費(含む人件費) 55%

販売促進費 0% (余地がない)

(プロモーション不足 次の資金が生まれない、  
の悪循環)

緊急シンポジウム  
「どうする日本の学術誌！」

